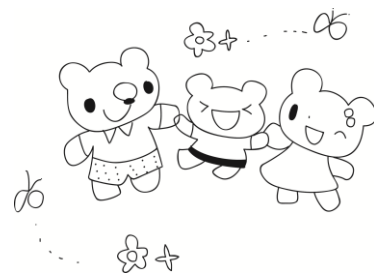


⑤ にじせいしきゅうたいじんえん 二次性糸球体腎炎（主に紫斑病性炎）



〜〜〜 どんな病気？ 〜〜〜

全身の病気の一つの症状として血尿、蛋白尿が半年以上持続する腎炎のことで、IgA 血管炎という全身の血管炎に合併するしはんびょうせいじんえん紫斑病性腎炎が子どもでは最も多くみられます。IgA 血管炎では、手足・おしりへの点状出血（紫斑）と腹痛・血便などのお腹の症状、関節の腫れ・痛みなどの症状もみられ、約半分の患者さんで腎炎を発症します。

〜〜〜 どんな症状が起こるの？ 〜〜〜

病気が軽い間は自覚症状が何もなく、検査をして初めて血尿や蛋白尿に気づきますが、病気が進行すると蛋白尿が増えて腎臓の働きが悪くなることで、むくみや高血圧がみられることがあります。

〜〜〜 どんな治療をするの？ 〜〜〜

①薬物療法

紫斑病性腎炎では病気が進行している場合にはステロイド薬、免疫抑制剤などいくつかのお薬を組み合わせた治療を2年間程度行います。病気が軽い場合には、1〜2種類のお薬で治療します。

②生活管理

自覚症状がなく、蛋白尿が1+程度で安定している場合は、軽い運動と中等度の運動ができます。さらに状態が安定し、蛋白尿がー〜±、血尿が1+程度で経過している場合には運動制限は不要になります。

腎臓の病気が進行し、蛋白尿が増加したり肉眼的血尿が持続する場合、むくみや高血圧などの症状がみられる場合には入院治療が必要なこともあります。

また、紫斑や腹痛などの症状に応じて運動制限が必要となることもあります。

〜〜〜 治る病気なの？ 〜〜〜

多くの場合は自然経過あるいは治療によってよくなりますが、IgA 血管炎の症状を繰り返す場合や重い腎炎の場合には腎臓の働きが悪くなることがあるので、しっかり治療することが必要です。しかし、運動や食事を必要以上に制限せず、心身の成長を妨げないようにしましょう。